

平成27年度政策討論会第三分科会要点記録

日時 平成27年8月18日

場所 会議室

会議時間 15:00～16:00

出席者 座長 雪本 清浩

副座長 反甫 旭

池内 矢一

河合 馨

岸田 厚

京西 且哲

耒原 佳一

友永 修

鳥居 宏次 他欠席1名（五十音順）

冒頭、提案者である反甫議員より主旨説明

発言要旨

1. 各自が考えるインターンシップとは

- ・本市の中学校や高校で職業体験等が行われているが良い印象を持っている。
- ・市役所のインターンシップの受け入れは人手のかかる部署やイベントで多いのでは。
- ・他市の募集要項を見ると対象者を限定している場合があるがそれはいかがなものか。
- ・キャリア教育としての視点でも大切ではないか。
- ・どこの市役所も受け入れ人数が少なく、期間が短いが学生は本当に理解しているのか。
- ・議論する上で役所だけでなく、民間企業のインターンシップも考察しないといけない。
- ・学生が仕事を経験でき、インターンシップを通じて今までの仕事に対するイメージが変わることは受け入れ側にもプラスだと思う。
- ・有名な企業では倍率が高く、参加できない場合もある。
- ・市役所のインターンシップは個人情報などの問題もある。
- ・市政への関心を高めるためにも良いのではないか。
- ・役所へのインターンシップが少ないのは民間企業が多いからか、受け入れる側の問題なのか。
- ・インターンシップを受け入れると時間や人員がとられるのではないか。
- ・役所に新しい風を吹き込むこととイメージアップのためにも必要ではないか。
- ・新卒採用者がすぐに仕事を辞めることを防ぐことにもつながるのでは。
- ・民間企業と違い、行政では積極的な採用活動ができないのでこの制度を活用し、役所を見てもらう。
- ・庁内ではトップダウンで行わないと課題解決にならないのでは。各課より申し出で行っ

平成27年度政策討論会第三分科会要点記録

ている。

- ・今までに本市でインターンシップを経験し、採用された人数は3人いる。

2. インターンシップはどこが主導か

- ・大学からの申し入れや協議会を通じての受け入れが多い。市役所へ直接問い合わせもある場合もある。
- ・市内では人事課が各課に受け入れのお願いをしている。

3. インターンシップを広げるべきか、もしくは現状維持か。

- ・インターンシップ全般の問題と役所の問題を分けて考えるべきではないか。
- ・ある大学の方に聞けば、機能していないという意見もある。
- ・市内の民間企業とも商工会議所を通じて連携してみてもどうか。
- ・受け入れ側の意見も聞くべきではないか。
- ・若者の人材育成は岸和田の将来に関わる。
- ・インターンシップ経験者から本市への就職者が少ない。まだまだ、課題がある。

次回にむけて

民間、行政問わず、どういうところでどんなインターンシップを行っているか、各自調べて議論を深める。